

組織現勢 (10月1日現在)

組合員数 21,830 世帯
 出資口数 91,484 口
 9月の新規加入 12 世帯
 9月の増資口数 76 口

No. 344 再生紙を使用しています。



発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円

仲間増やし月間は
 10月1日～12月16日です

- ・月間の仲間増やし目標は 630世帯の到達 (年間目標の90%)
- ・いつでも元気の購読者 30部
- ・コムコム購読者 10部
- ・大腸ガン検査 450人 です

10月1日(土) 今年も行いました
 仲間増やし月間スタート直後のステップ

第3回城南3法人「生協組合員活動と医療・介護活動交流会」

今年は、2会場で分散会形式で行われました
 過去最高の18演題の発表でした



組合員・職員あわせて82人が参加しました

参加されたみなさん、お疲れさまでした

当日は職員、組合員あわせて82人の参加でした。今回の交流会は、大きな会場が確保できず、大田病院会議室の2カ所を使った分散会で行いました。

第1会場9演題、第2会場9演題の計18演題で、組合員さんのとりくみや各事業所のとりくみなどを発表しあい、多くの質問も出され、意義のある交流になったと思います。

この会の目的の1つでもある「仲間増やし月間のステップの場」という意味でもとても良い機会となりました。

最後に行われた行動提起では、今年の月間は「地域に出て行く」ことが強調され、今後地域を訪問していく中から、多くの方と対話し、ネットワークをつくり、組合員も増やしていくことが強調されました。

《参加者の感想より》

- ・若い職員も多く参加して、よい交流会だった
 - ・満席で会場が狭かったが、中身はとてもよかった
 - ・司会も組合員さんと一緒にすすめていくやり方よい
 - ・地域をまわる必要性を感じた
 - ・質疑応答が活発でよかった
 - ・大田病院がステキな組合員さんたちに支えられているんだと感じた
 - ・お元気ですか訪問…こまめにまわらなければ
 - ・地域のネットワークをどのようにつくっていくかが課題ですね
 - ・医療関係の発表は医療用語が多かったかな
 - ・別会場の発表も聞きたかった
 - ・若い人の発表がもう少し多くてもよいのでは
 - ・3法人は、改めてすごい組織だと感じた
 - ・なごやかな和気あいの雰囲気がよかった
- *その他、個々の演題についても、多くの感想をよせていただきました。

第1会場

- ①大森中診療所の健診について
健診センター 伊藤 邦夫
- ②東日本大震災とゆたかの家
豊支部 古口 昭代
- ③下部内視鏡検査の取り組みから
手遅れの癌を出さないために
～便潜血陽性から見たこと～
竹田 美枝子
共同作成 森里美、戸田いずみ、久津呂幸子、内山はるよ、長尾由香、益浦亜理香
- ④グループホーム虹の家しおかぜの取り組み
今をともに歩み支え合う
～グループホームしおかぜの2年間～
しおかぜ 橋本 雪子
- ⑤回復期リハビリテーション病棟の紹介
～リハビリテーション科から～
谷口 百合子
- ⑥西品川支部の食事会のとりくみ
西品川支部 松川 久男
- ⑦組合員と職員の間でつくる保健生協の活動
生協本部 野口 修二
- ⑧大田歯科の在宅往診について
大田歯科 吉田 心一
- ⑨わくわくヘルスチャレンジの取り組み
大森西北支部 塚平 憲和

職員からは、組合員さんならではの視点で、とても

第2会場

- ①グループホーム虹の家みちづかの輝き事例
最後まで自分らしく暮らせた援助を振り返って
みちづか 村松 由香
- ②医学対活動
～地域医療を守る後継者対策の取り組み
医学生担当室 東 充洋
共同作成 中泉聡志、日高直哉、杉山耕佑、田口大樹
- ③力をあわせてよりよい大田病院に
中央池上支部 星野 弘子
- ④終末期を支える訪問看護 なにかしてあげたいと思う気持ちを大切に
ゆたか訪問看護ステーション 木付ひとみ
- ⑤城南3法人で働くということ
組合員さんとともに
生協本部 横山 直城
- ⑥ろうあ者の舌癌患者に寄り添って
京浜診療所 三上 志津子
- ⑦大森中診療所の「よろず相談」のまとめ
水曜日担当 村松 茂
- ⑧地域における大田病院通所リハビリテーション
通所リハ科 針生 幸子
共同作成 松本牧絵、松本正行、工藤紀美子、太田香子、邊見亮
- ⑨城南3法人で取り組むお元気ですか訪問
生協本部 梶原 直之

発表演題を一つ紹介します

力をあわせて、よりよい大田病院に

中央池上支部 星野弘子さん

星野さんは、組合員と職員が力をあわせて、今よりもよりよい病院にしていきたいという思いから、大田病院を見学して(院内すべての場所)気になった点や引き続き行っておきたい点、パワーポイントにまとめて発表してくださいました。

よりよい病院にしていきたいと思います

- 組合員の視点で大田病院を見学してみました
- すばらしい所がいっぱいです
- でも、ここを改善したらもっといいのという点もありました
- もっともっとステキな病院にしていきたいと思います

【2面につづく】

参考になった。今後もご一緒によりよい大田病院にしていきたいと思います。感想が寄せられました。

腹八分

9月19日明治公園で開かれた「さようなら原発5万人集会」は主催者の予想を超えて6万人が参加呼びかけ人のひとり作家の大江健三郎さんは「原子力エネルギーは必ず荒廃と犠牲をとらなう。原発に抵抗する意志を持つていこう。想像力を持たない政・財界の実力者に思い知らせよう。そのために集会を、デモを」と参加者に呼びかけました。大江氏とほぼ同じ時期に文壇に登場した石原慎太郎氏の「今回の震災は天罰」「東京湾に原発を持つてきてもいい」「こんな発言と、大江氏の呼びかけには際立った違いがあります。想像力に乏しいのはどちらであるのか、すでに明らかです」▼3・11の震災、原発事故は多くの国民に想像力の高まりを促しています。被災地の救援・復興をわが身のこととして捉え、原発から自然エネルギー利用へ変えていくことが、地球全体の歩むべき方向だと考えはじめています。いま戦後という困難をふり返ると、国民の中にさまざまな想像力の高まりがありました。国民の自由を奪い、生命をも奪ってきた天皇制・軍国主義の圧力が効力を失った時、国民は新たな制度を自らの力でつくりあげてきました▼戦後日本の平和と民主主義への道は十分なものではありませんでした。歴代の政権党の選択した道は財界優先、アメリカ追従が基本でした。それが今日の格差社会を生みだし、再び戦争をする国へと歴史を逆行させようとしています。いま高まりつつある日本人の想像力は、日本の新たな方向を探りはじめています。